

苳草学院

「人間への希望」を胸に

苳草学院が本木の地に産声をあげて、今年で 63年になります。また、2008年には舎人に、2012年には西新井に本格的な学び舎を建設いたしました。学院には、教育には変わらざるもの（変えてはいけないもの）、すなわち一貫して流れているものがあるという信念、そして教育は常に具体的な実践であるという理念が、時を越えて脈々と受け継がれています。私たち教師陣は、以下の4つのミッションを掲げて、生徒や保護者に接し、信頼を得てきました。苳草学院は、これからも常に子どもたちとともに歩んでいきたいと考えています。

<https://karikusa-gakuin.com/>



お世話になりました。

次男は小学校3年生から苺草学院の本部校を通いました。本部校には無料の送迎バスが生徒さんの通塾時間に合わせて自宅まで来てくださいます。低学年のお子さんでも安心して通うことができます。苺草学院では子どもたちが自ら進んで学ぶ姿勢を培うための一助として、漢検・数検・英検への挑戦を勧めています。さらに各種検定への挑戦を奨励すべく、2009年度より検定奨励金交付制度を開始いたしました。学院生が漢検・数検・英検を苺草学院にて受検し合格した場合、その級の受検料相当額を、次の検定取得のための奨励金として苺草学院が受検者に交付いたします。次男も数検・英検の合格により自信をつけ、新たな目標に向けて学習を継続していました。高校受験では英才プログラムのコースを通い、苺草学院の先生方のおかげさまで2022年の春に憧れの都立高校に入学する事が出来ました。



英才プログラムとは、苺草学院には、「できる子はさらにできるように」という考えがあります。また、近年広がる私立と公立との教育格差が、地域の子どもの未来を左右することがあってはならないという考えを持っています。公立中学に進む、特に飛びぬけて高い能力をもつ優秀生を対象として、学年、指導形態を飛び越えて、さらにできるように指導を進めます。



指導特色

▶ 面前教育とオンライン授業

苺草学院の生命線は、何と云っても心触れ合う「面前教育」です。教師は生徒の理解の様子はもちろん、体調や心理面にも配慮しながら授業を行います。ただし、学校が休校等で外出ができない場合に対応して、「オンライン授業」により学びの継続を確保します。塾に出席できない期間もオンライン授業を通して学習を継続し、出席できるようになった時にスムーズに面前授業に復帰できるようフォロー態勢を整えています。

▶ 教材（テキスト）

苺草学院では、本学院理事長の考えを重視し、クラス、個別を問わず、習熟度に合わせた教材を厳選しています。また、授業用、家庭学習用、定着度確認用など、用途に応じた教材を使用しています。小学校、中学校、高校のいずれも、教材はすべて学習指導要領の新課程に対応しています。苺草学院の教師は、それらの教材をもとに入念な授業準備を行い授業に臨んでいます。

▶ 各種テスト

「わかる」と「できる」には違いがあります。子どもたちの学力をしっかりと育むには質の高い客観的なテストが必要です。クラス指導では年間のカリキュラムにそって、個別指導では個々の到達度に合わせて各種テストを実施しています。テスト後は解説を行い、必要に応じて解き直しをしてもらいます。解き直しにより理解が深まり、自信がつかます。

● クラス移動制度

学力の向上に応じて、クラス移動を行います。客観的なテストデータはもとより、授業態度や宿題状況なども考慮して、より高いレベルのクラスでの受講が可能です。



教育とは

- ▶ 教育とは人を導いて善良な人間とすること。人間に内在する素質、能力を発展させ、これを助長する作用。
- ▶ 真、善、美の価値に関する科学的能力、道徳的能力、芸術的能力などの発展完成。人間の諸特性、諸能力をただ自然のままに伸ばすことではなく、普遍的な規準によって、そのあるべき姿にまでもちきたすことではない（「教育基本法の解説」）。
- ▶ 貧富の差は教育格差に繋がる！！苺草学院英才プログラムのおかげさまで次男はあるべき姿にまでもちきたすことができました。感謝申し上げます。



赤や青色といった花色のあるアジサイですが、実は土が酸性かアルカリ性かによって、その花の色が変わるといわれています。つまり、アジサイを育てる上で、土づくりはとても重要です。



知恩图报

☆知恩图报 zhī ēn tú bào

得到别人的恩德，要懂得回报与他人。

人たるもの恩を受けたらそれに報いなければならず，恩義を忘れてはならない。

☆受人滴水之恩，必当涌泉相报。

Shòurén dīshuǐ zhīēn, bìdāng yǒngquán xiāngbào

「滴水の恩を受くる人、必ずや湧泉であい報ゆるべし」

「一滴の水の恩義を受けた人は、汲めども尽きぬ湧き水をもってその恩義を必ず返すようになさい」

